

第４４回公共施設等総合管理計画 策定推進本部		日時	令和７年６月１０日（火） ９：１４～９：４１	場所	庁議室
出席者 （１５人）	白井市長、神山副市長、古橋副市長、大熊教育長 梅原企画財政部長、高橋庁舎建設等担当部長、鈴木総務部長、深澤市民部長、柿崎環境部長、高橋福祉保健部長、堤子ども家庭部長、若藤都市整備部長、大澤学校教育部長、平野生涯学習部長、伏見議会事務局長				
欠席者	なし				
事務局	企画政策課 郷古公共施設マネジメント推進担当課長 保育課 中島保育施策調整担当課長				
議題	１ 「(仮称) 小金井市保育の在り方に関する方針（案）」の検討の方向性について				
資料	１ 「(仮称) 小金井市保育の在り方に関する方針（案）」の検討の方向性について				
（進行：企画財政部長）					
【議題１】「(仮称) 小金井市保育の在り方に関する方針（案）」の検討の方向性について					
（本件については、子ども家庭部長が説明を行った。）					
○ 答申を最大限尊重し、市全体の保育の質の維持向上のため、４つの役割を果たしていくことが基本と考える。そのためには、定員管理、保育園の老朽化対策、スペースの確保等の課題に対応していく必要がある。					
○ 園数毎の対応については、現行の児童定員を維持した場合と減らした場合の対応について整理し、定員管理・老朽化対策・スペース確保の観点で比較した。詳細は、資料をご覧ください。					
○ 答申において、２園では４つの役割を果たすことが難しいとされたことを踏まえ、市として園数を判断していく必要があると考える。					
○ 決定までのスケジュールについては、６月２６日までに決定していきたい。					
○ 方針（案）の決定後、６月２７日からパブリックコメント、２８日から保護者向けの説明会、７月１日に全員協議会というスケジュールで進めていく予定である。					
（以下の要旨で市長から発言があった。）					
○ 今回の方針（案）検討では、答申を最大限尊重し、その中で明確に位置付けられた新たな役割を確実に進めていくことが重要であり、２園では役割を果たすことが難しいとされたことを踏まえ、少なくとも３園以上で検討していかなければならないと考える。					
○ 現行の児童定員を維持したままでは、新たな役割に必要なスペース確保ができないため、定員削減も含め、様々な組み合わせを検討する必要がある。市全体で保育の質の維持向上に努めていくため、各部各課のご理解ご協力をお願いします。					
【関連質疑等】					
○ 答申も尊重しつつ、従来の市の方針は３園廃止だったため、厳しい判断になると思うが、これまでに進んできたことにも配慮し、できるだけ影響が無い判断をお願いしたい。					
○ 在り方検討委員会で民間園の委員が辞任されたことに関し、その後、民間園との信頼関係の構築はどのような状況か。 → ４月には民間園から答申案に対するご意見をいただいております、意見交換はできている。					
○ 市長は直接民間園の方と会えていないので、機会を設ける必要があるのではないかと。 → 調整させていただきたい。					
○ ここでの「保育の質」とは、何を指しているものか。 → 定量的に測れるものではなく、明確な回答が難しいが、保育士の人材や社会的に問題となっているような事件や事故を未然に防ぐこと等、公民問わず保育者自身が学びあいながら意識していかなければならないものとする。					

- 9月までに条例改正することが不可欠と認識している。その反面、職員団体と合意している内容もあることから、その点についてもご協力いただきたい。
- 市の方針は2園だったため、内容によっては市長報告に該当する案件ではないか。
→ まだ決定の段階ではないため、市長報告には該当せず、議案の説明での対応になると考えている。
- 現時点の財政状況としては、令和6年10月時点の実施計画から更に厳しくなっており、既存事業であっても事業費が増加している。実施計画で見込んでいた事業であっても、その全てを実施していくのは難しくなることが想定され、全ての部に影響が出る可能性も念頭に検討をいただきたい。

— 以上で、会議終了 —